

JR東労組青年部「2023沖縄平和研修」

Part②

本部青年部情報誌「POINT」の39号に引き続き、5月13日～15日に開催された、「JR東労組青年部2023沖縄平和研修」についての情報になります。沖縄の地で学んだことを紹介していきます。

① 沖縄戦とは？

1945年(昭和20年)3月26日、アメリカ軍が那覇市にある慶良間諸島(けらましょとう)に上陸したのが始まりでした。アメリカ軍は4月1日に、沖縄本島中部の読谷村(よみたんそん)に上陸し、北と南に分かれて侵攻しました。沖縄戦は、天皇中心の「国体護持」を守る本土決戦準備のために時間を稼ぐ「持久戦」の場とされました。勝利の可能性がない日本が天皇制を堅持するための「捨て石作戦」でした。アメリカ軍の侵攻により日本軍は主力の大半を失い、牛島軍司令官が6月23日に自決し、軍による組織的な戦闘は終わりますが、沖縄戦の終結は同年9月7日であり、8月15日にポツダム宣言を受けた後も沖縄だけ戦闘状態が続いていました。沖縄県の人口(戦前)は約49万人で戦没者が約12万人いたことから、沖縄県民の4人に1人が亡くなりました。

② 糸数壕(アブチラガマ) →

「ガマ」は沖縄の方言で洞穴や窪みのことを言います。糸数壕は全長270メートルで、沖縄戦で住民の避難場所とされていました。戦況が激しくなるにつれ、次第に日本軍の陣地に変わり住民は出口に近い場所へ追いやられてしまいました。病院壕として使用されることになり、多くの傷病兵を収容していました。傷病兵の治療を行っていましたが、薬品不足で麻酔をせずに手足を切り落とすこともありました。



③ ひめゆり学徒隊って？

沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の生徒222人と教員18人で構成された女子学徒隊です。主に負傷兵の看護や水汲み、伝令、食料運搬などを、爆弾が降り注ぐなか命がけで担いました。

6月18日、成す術を失った日本軍により、ひめゆり学徒隊は突然「解散」が命じられ、生徒たちは彷徨い、日本軍から渡された手榴弾で集団自決に追い込まれたり、米軍の攻撃で多くの命が奪われました。

ひめゆりの名の由来は沖縄県立第一高等女学校を「乙姫」沖縄模範学校女子部を「白百合」の両方の名前を合わせて「姫百合」と名付けられました。